

学校教育目標	【友愛】心豊かな人創り 【自律】自ら学ぶ人創り 【進取】活力あふれる人創り
目指す学校像	【友愛・自律・進取】の気概溢れる我が学び舎“TEAM TOKIWA”の創造
重点目標	1 ICTを活用した学びの自律化と個別最適化 2 生徒主体の活動の充実と非認知能力の向上 3 地域とともにある学校づくりの推進 4 持続可能な働き方と教育活動の充実

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

年度		学校自己評価				年度評価		学校運営協議会による評価
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	実施日令和8年2月17日 学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	<b>【学びの質の向上に関する取組】</b> (現状) ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査において、国語・数学・理科の結果は、全国、市平均と比べ、概ね良好である。 ○全国体力・運動能力、生活習慣等調査において、実技集計の結果は、全国、市平均と比べ概ね良好である。 (課題) ○全国学力・学習状況調査の自校結果分析から、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」の問いで、肯定的評価は、県・国平均を上回っているが、自校生徒の実態を踏まえ、更に高めたい。	・GIGAスクール構想を活用したアクティブラーニングの推進 ・個別最適な学びの実践と、読解力向上、学びの自律化	①「主体的・対話的で深い学び」についての研究を進め、デジタル教科書やICT機能を活用した授業により、生徒の学び続ける意欲・態度を高める。 ②全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査について、採点結果から生徒自らが学習状況を把握できるようにする。	①学校評価「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の生徒の割合が90%以上となったか。 ②学習状況調査の採点結果をもとに、生徒自らがこれまでの学習を確認、評価し、今後の学びに生かすことができたか。	①学校評価「自らの考えを持つ、他者と話合う学び」の生徒肯定的回答は97% (R6;96%)と目標を上回る結果となり、高い成果を上げることができた。 ②学習状況調査結果を教科指導において適宜解説や活用を図ったことにより、生徒自身が学習内容の理解度を自ら振り返り、既習事項等一層の定着に資することができた。	A	生徒主体の学びを推進するために、本市教委施策の「学びの指標」を踏まえ、ICTを効果的に活用した授業づくりを図り、教師の指導力向上及び授業改善、生徒の主体性の育成に努める。	○達成状況等素晴らしい成果を上げている。 ○運動能力について、全国平均と比べて良好とのことだが、過去との比較はどうか。 ・校長回答→生活習慣の変化もある。本市全体としては、児童生徒の運動能力は高いレベルにあると認識している。
2	<b>【子どもの発達や心のサポートに関する取組】</b> (現状) ○全国学力、学習状況調査において、「学校に行くのが楽しい」の質問に対し、肯定的な回答をした生徒の割合が全国、市平均と比べ、高い。 (課題) ○いじめやSNSトラブル等はゼロではない。 ○教職員自らが、常に人権意識や人格教育への識見を磨きつづけなければならない。	・生徒一人ひとりの人格を尊重した積極的生徒指導、教育相談、人権教育の充実	①目と目を合わせた毎朝の健康観察や何気ない会話から、生徒の小さな変化を見逃さない風土をつくる。 ②毎学期の「ほのぼのタイム」や適時適切な支援・相談により、いじめや課題の早期発見、早期解決に繋げる。 ③生徒の主体性を生かした生徒委員会や部活動での取組を支援、推奨する。 ④教職員研修を通して、教職員自身の人権感覚や言語環境を向上させ、教職員自身が示範となる。	①各学級で担任等による一日の始まりが円滑に行えたか。 ②生徒一人ひとりを大切にし、悩みや相談、課題等に対し、誠実、迅速に、組織で対応できたか。 ③学校評価「係や委員会活動等に積極的に取り組んでいる」生徒の割合が95%以上となったか。 ④学校評価「生徒のよさを伸ばす」の肯定的回答(職員95%以上保護者90%以上)となったか。	①朝の出席確認では、生徒と視線を合わせ呼名した。教職員間では、生徒個々に関する会話や気付きを共有し、支援に生かされた。 ②「ほのぼのタイム」を効果的に活用し、生徒一人ひとりに寄り添った相談を担当や組織で丁寧・迅速に行うことができた。 ③生徒の回答95%と生徒の自主的に活動する姿が高い水準で磨かれている。 ④「生徒のよさを伸ばす」の肯定的回答は(職員97%;保護者92%(R6;96/91)と、高い成果を上げることができた。	A	誰もが心に不安や悩みを抱える発達段階を迎えた生徒に対し、個に寄り添った指導の拡充が、一層求められる。引き続き、豊かな体験活動を推進し、非認知能力E Q(協働性や共感性、思いやり、創造力、状況把握能力等)を向上させ、心の下支えを進める。	○「ほのぼのタイム」とは、 ・校長回答→毎学期当初、各担任が学級の全生徒と個別面談を実施し、カウンセリング的対応等で一人ひとり個に応じた寄り添いを図る。さらに、生徒指導部会と教育相談部会合同の会議において、SCやSSW 出席のもと面談結果を共有し、より良い支援・寄り添いの具現につなげる。
3	<b>【地域とともにある学校づくりに関する取組】</b> (現状) ○現在までの学校運営協議会において、生徒に身に付けさせたい力について熟議を重ねた。その結果、コミュニケーション力の育成に向け、あいさつの励行を徹底することを共有した。 (課題) ○情報化とともに個人情報保護等の社会状況を踏まえ、学校からの情報発信とともに、土曜授業や学校行事等の保護者・地域への適切な公開を適宜実施し、地域とのインタラクティブなコミュニケーションの在り方も課題としたい。	・学校・家庭・地域で共に活動するコミュニティ・スクールの充実 ・ICT ツール等を活用した情報発信と、教育活動参観機会の設定	①生徒の成長を支える当事者としての自覚を生徒自身、職員、保護者、地域住民それぞれに促す。 ②育てたい力「コミュニケーション力」の育成に向けた挨拶を励行する。 ③関係小学校との連携により、学校運営協議会を円滑に開催する。	①生徒への意識付け、保護者地域への説明を年度当初に行えたか。 ②目指す挨拶の仕方・姿を検討し、学校、家庭、地域で共有できたか。 ③常盤小学校、常盤北小学校との情報交換を密にし、同一の目標に向かって生徒の活動を支えたか。	①年度当初保護者会等で、生徒を支える望ましいセーフティネット構築への協働を懇願した。 ②学校運営協議会に生徒・職員も参画し、挨拶の意義から熟議を重ね、その結果を地域・生徒・保護者へ伝え共有した。 ③小・中合同の学校運営協議会やあいさつ運動を実施し、相互理解の深化を図った。	A	保護者の来校機会や地域との関わりが増え、学校の様子や日々の生徒の学びの姿の発信ができています。また、生徒が、幼稚園、小学校や地域社会で学ぶ活動を取り戻し、多様な学びの具現化を図るとともに、情報発信及び交流ができています。今後も、一層の拡充を図りたい。	○スクリレについて、内容を精査した上で、自治体や公民館からのお知らせ等についても発信できるところを、学校からアピールしてもよいのではないかと。 ・校長回答→更なる利活用の在り方の参考とさせていただきます。
4	<b>【教育環境の整備に関する取組】</b> (現状) ○築50年を経た校舎や施設について、老朽化による破損等が多い。 ○感染症の多様化する状況等により、教育活動の制限や学級閉鎖等が、いつ起こるかかわからない状況にある。 (課題) ○安全安心な環境整備及び学校運営に係る公金と施設管理の適正性、可視性の担保 ○生徒にとって学校が居心地のよい Well-being な場所であり続けなければならない。	・経年劣化等による施設等への適宜適切な対応 ・安全な生活の実現に主体的に取り組む生徒の育成	①月例安全点検実施及び適切な事後対応を遂行する(市教委との連携、経過観察等) ②管理職、事務職との月例ミーティングによる予算執行管理を徹底する。 ③校長マネジメント経費の概要及び計画を教職員に周知する。	①分掌評価「予算」に関して、その執行に係る肯定的評価が90%以上となったか。	①分掌評価「予算」に関して100%の肯定的回答という結果となり、高い成果を挙げることができた。管理職、事務職との月例ミーティングによる予算執行管理、各学年会計担当者会議(学期毎)による金銭管理、校長マネジメント経費の概要及び計画の周知、ペーパーレスに係るコスト削減運動それぞれが適宜適切に為すことができた。	A	老朽化施設の維持管理と「未来の教室」「未来の学校」への対応を両面から進めた。校内の安全性を高める環境整備、物品整理を進めるとともに、生徒主体の自治的活動を促し、より美しく活力溢れる学び舎に変貌しつつある。引き続き、物価動向に注視しつつ、定期的な予算執行管理を実施し、効率的な運用を図る。	○渡り廊下等の繋ぎ目部分も含め、校舎の耐震性能やベランダの手摺等の修繕等は如何。 ・校長回答→耐震性については基準を担保している。またR7年12月議会で示された学校施設リフレッシュ基本計画の見直しを受け、本校改修工事も、ペンディングとなった。目視・打音等の日常点検や教職員による一層推進する必要がある。 今後も、生徒委員会活動の一環とした生徒朝会の拡充を図り、生徒の自治意識の涵養と自治的運営を支えていく。
5	<b>【教職員のキャリア形成に関する取組】</b> (現状) ○ストレスチェックの結果から、職場について、職員の経験や役割、所属等を生かしたOJTが進められ、よい環境にあることがわかった。 ○学校課題研究を中心に、ICTの活用等、研修が計画的に行われている。 (課題) ○全職員で取り組む学校課題研究等での新たな学び合いと高信頼性組織の意識付けが求められる。	・協調と創意を基盤とし、挑戦を奨励する組織の醸成	①「ICTの活用を通した持続可能な指導の研究」について、校内研修を通して学び合い、指導に生かす。 ②職員同士の縦横の繋がりに加え、個々の職員が外部の協力者や社会と繋がり、学ぶ機会を推奨する。 ③“チーム常盤”の教育活動の充実を図るための「情報の共有化」「場の共有化」「目標の共有化」を有機的組織として構築する。	①ICTを活用した授業の実践、研修を通し、生徒一人ひとりの学習進度や習得状況、興味関心に応じた学びの場や機会の創出ができたか。 ②職員個々が計画した人事自己評価における「研修」が予定通りに進められたか。 ③教職員の同僚性、協働性を高めることができたか。	①埼玉県進路指導・キャリア教育研究発表、小中一貫教育合同研修、ICT機器操作向上研修、定例校内研修を重ね、生徒の実態に応じた指導の工夫・改善を図る姿勢が向上した。 ②人事当初面談で策定した研修内容を教員各々が目的化した主体的に自己研鑽に努め、資質向上に努めた姿が多く見られた。 ③“チーム常盤”というキャッチワードを常に声に出し、仕事に厳しく、人に優しい和やかな“同志”としての関係を導び、生徒を守るプロ教師集団創りを進めた。	B	公教育における不易と流行を追求する中、これからの指導の在り方や働き方に関する研究も求められている。 ICTを活用した学びの推進とともに、スクール・ダッシュボードを活用した生徒の学習・生活・健康面の記録や教員の指導・支援の記録の蓄積を業務改善に更につなげていく。キャリアステップに応じた教師力向上とワークライフハーモニーの醸成に引き続き尽力したい。	・体調を崩している教職員の数は如何。 ・校長回答→今年度は複数名である。引き続き、教職員一人ひとりの心身の安寧を保てるよう、同僚性を高めつつ、組織で学校運営にあたる。

